

令和7年度 学校経営計画

八王子市立宇津木台小学校

校長 松丸 渉

はじめに

ビジョンはちおうじの教育に基づき、自分の「みち」を、自信をもって歩む力を育むために、これからの社会を担っていく児童に生きる力を身に付けさせること。そして、地域とともに成長し続け、学校・家庭・地域が連携して教育活動を進め、自分の住んでいる街に愛着をもち、その街に貢献していける児童を育成していくことが大切であると考えている。

宇津木台小学校が、開校以来築き上げてきた歴史と伝統を継承しつつ、急速に変化する社会状況や教育改革に柔軟に対応し、主体的、組織的に教育活動が展開される学校経営を目指す。

また、学校教育における「不易と流行」を見極めた教育活動の推進を図るとともに、学校教育を通してより良い地域社会の構築に寄与できる、社会に開かれた教育課程の実現に向け、地域運営学校としてより一層家庭・地域と連携・協働した教育活動の創造を図る。すべての児童の幸福を願い、「知」「徳」「体」の調和のとれた豊かな人間性をはぐくむとともに、将来どのような環境に置かれても、他者と協働しながらたくましく目の前の問題に立ち向かい、より良い生き方を選択できる「生きる力」を育てていく。

Ⅰ 目指す学校

【教育目標と目指す児童像】

児童が国際社会を逞しく生きる力を身に付け、生涯学ぶ意欲と向上心をもち続けることを目指す。

知 ○よく考え、すすんで学ぶ子〔学力の育成〕

自分の思いや考えを表現し、ねばり強く取り組む児童

徳 ◎協力し、思いやりのある子〔豊かな心の育成〕

他者の気持ちを考えた思いやりの行動ができる児童

体 ○体をきたえ、ねばり強い子〔健康な体と心の育成〕

自らすすんで心身をきたえ、健康の保持増進に努める児童

【教育目標を達成するための目指す学校像】

『笑顔あふれる 自分も友達も大切に作る学校』

(1)児童が成就感や満足感を味い学び合える学校

- ・全教育活動を通して、児童が主体的に学習に取り組み、自らの知・徳・体の成長を実感でき、自己肯定感を高められる学校。

(2)認め合い・励まし合い・高め合う学校

- ・関わり合い、学び合う活動を重視し、人権意識を高め、一人一人の個性を認め合える支持的風土のある学校。

(3)保護者・地域から信頼され、地域の誇りとなる学校〔開かれた教育活動〕

- ・学校運営協議会を核に、教育活動を保護者・地域に開き、情報の共有化を図り、地域とともに教育活動を進めていく学校。
- ・教育活動のねらいや成果を保護者・地域に説明し、課題の改善に努め成長し続ける学校。
- ・安全指導やアレルギー対応を確実に行之、安心して通える学校。

(4)連続性を大切にする学校〔保幼小連携・小中一貫教育〕

・就学前から入学後の9年間を見通し、保・幼・小・中の連携を充実させ、保育園・幼稚園と小学校、小学校と中学校の接続を円滑にしていく学校。

(5)一人一人を大切にする学校

・個別の教育的ニーズや、個に応じた支援を組織的かつ計画的に行っていく学校。

(6)教職員が専門職としての自覚をもち、自己研鑽に励み、協働し学びあう学校【目指す教師像】

- ① 専門職としての自覚をもち、自己研鑽に励み、協働し学び合う教師
- ② 人権を重んじ、言動に責任をもつとともに、常に学ぶ姿勢をもち、切磋琢磨する中で組織の一員としての役割を果たせる教師
- ③ 人権尊重の理念を尊重し、職務を真摯に遂行する教師
- ④ 「子供たちのために何ができるか」を考え、子供たちの良さを引き出せる教師

2 中期的な目標と方策

目指す学校像	到達目標	方策
児童が成就感や満足感を味わい学び合える学校	児童が、学習に対して主体的に取り組み、学び合いを通して、より深く追求できるようになる。	基礎学力の定着を図るとともに、主体的・対話的で深い学びになるような授業実践を積み重ねていく。
認め合い・励まし合い・高め合う学校	児童が、学級・学年だけではなく、異学年とも豊かな関わり合いができるようになる。	支持的風土を醸成する学級の雰囲気づくりと、縦割り班活動の充実を図るとともに、自己肯定感の向上を図っていく。 いじめの未然防止の取組を充実させていく。
保護者・地域から信頼され、地域の誇りとなる学校	保護者や地域の声を生かして、児童が安心して学校に通い続けるようになる。	学校運営協議会での意見や学校アンケートをもとに改善を図り、教育活動の充実を図っていく。 安全指導やアレルギー対応を確実にを行い、児童が安心して通えようにする。
連続性を大切にする学校	保育園や幼稚園、中学校と円滑な連携をすることで、新たな不登校が増えないようにする。	近隣保育園や幼稚園、石川中学校との連携を密にすることで、児童が安心して進学できるような環境づくりを行う。
一人一人を大切にする学校	全員が相談できる大人がいて、外部につながっていない不登校が0人の状態を続けていけるようにする。	特別の支援を必要とする児童や不登校（傾向）児童のための環境整備や組織的な対応を行う。
教職員が専門職としての自覚をもち、自己研鑽に励み、協働し学びあう学校	専門性をもち、安定した学級経営が行えるようにする。 校務分掌に責任をもって主体的に取り組み、高め合えるようにする。	校内の研究・研修だけではなく、八王子市の研究会にも参加させ、教科等の専門性を高めるとともに、職層に応じた組織的な人材育成を行っていく。

3 令和7年度を取組と重点目標と方策

(1) 児童が成就感や満足感を味わい学び合える学校にするために

項目	具体的な目標	今年度の取組
授業改善	・校内研究では、年4回の研究授業を実施して、主体的・対話的で深い学びとなるような授業改善を図る。 ・個々の授業の課題を明確にして、授業改善を図る。 ・GIGAスクール構想を踏まえ、ICTの効果的な実践を検討し、全学級の全児童が活用できるようにしていく。 ・教員がお互いに学び高め合えるOJT研修を実施し、授業力・指導力の向上を図る。	・年間4回の校内研究では、講師を招き、算数の授業についてご指導いただき、授業改善を図る。 ・基礎・基本の定着を図るとともに、自ら問題解決をできる児童の育成を目指した授業実践を、年間を通して進めていく。 ・管理職の授業観察を年3回行い、授業力の向上を図る。 ・全学級において、児童一人一台の学習用端末の活用を推進し、年間指導計画を基に授業実践をするとともに、全学年が当たり前のように学習用端末を活用することができるようにする。 ・主幹教諭、主任教諭が中心となって、教員同士が高め合うOJT研修を年10回以上実施し、教員全体の指導力や授業力の向上を図る。
基礎・基本の定着を図るために	・第2回の八王子市の学力調査で、平均点で基礎的な内容では70%以上の定着、応用的な内容では60%以上を目指す。 ・掛け算九九の確実な定着を図る。 ・はちおうじっ子ミニマムで、70%の児童の習得を目指す。 ・学習用端末を活用して、基礎・基本の定着を図り、基礎学力の向上を目指す。	・八王子市の学力調査の結果を基に、学力定着へ向けての各学年での取り組みを検討し、課題を明確にして、基礎・基本が確実に定着するような授業改善に取り組む。 ・学力調査後には、ドリルパークを活用して、個々の課題に応じた問題に取り組ませ、基礎学力の定着を図る。 ・2年生の九九検定を3学期に実施し、100%の定着を図る。 ・はちおうじっ子ミニマムでは、できなかった問題に繰り返し取組ませ、第6学年の70%の児童に定着が図れるようにする。 ・学習用端末を活用した家庭学習の取組を、年間を通して適宜行っていく。
地域教材や地域人材を活用した教育活動の推進	・地域と共同した教育活動を推進し、地域の教材や人材を活用して郷土学習の推進を図っていく。	・各教科の中で地域の人的・物的教育資源を活用した教育活動を実践していく。 ・生活科や総合的な学習の時間等では、地域の教材を活用した教育活動を進めていく。

読書活動の充実について	・朝読書や読み聞かせ、電子書籍を効果的に活用し、読書活動の充実を図る。	・毎週の朝読書や読み聞かせ、読書週間を設定したり、電子図書も活用したりしながら、読書への興味が継続していくようにする。
キャリア教育の推進	・はちおうじっ子キャリアパスポートを活用して、将来への夢や希望を育み、目標に向けて努力する態度を養い、自信をもたせ自己有用感の向上を図る。 ・地域を活用したキャリア教育を推進していく。	・年間を通して、「はちおうじっ子キャリアパスポート」を活用し、児童一人ひとりが目標設定や行事などの振り返りを行う。 ・6年生の総合的な学習の時間では、職業調べやゲストティーチャーの話を聞くことで、職業理解を推進していく。全教育活動を通してキャリア教育の推進を図っていく。

(2) 認め合い・励まし合い・高め合う学校

項目	具体的な目標	今年度の取組
豊かな人間関係の育成	・児童会活動の中に、いじめに対する未然防止の取り組みを取り入れ、児童がいじめに対して主体的に考え行動できるようにする。 ・「特別の教科 道徳」では、多面的・多角的に物事をとらえ、深く考えたり議論したりする授業や全教育活動を通して道徳的価値の自覚を促し、道徳的实践力を育てる。 ・全教育活動の中で、「認め合う・励まし合う・高め合う」集団活動を通して支持的風土のある集団の育成を図る。 ・Q-Uを活用し、児童理解を深めていく。	・代表委員会がいじめ防止のための取り組みを検討・実施し、主体的にいじめ防止への意識を高めていく。 ・「特別の教科 道徳」では、多様な考えを共有する意見交流の時間を設定した授業実践を行い、道徳的实践力を育成する。 ・道徳授業地区公開講座では、講演会を実施し、保護者とともに子供たちの健全育成について考える時間を設定する。 ・日々の教育活動の中での、「認め合い、励まし合い、高め合う」活動だけではなく、たてわり班活動や行事なども通して支持的風土のある集団形成を図る。 ・5・6年生のQ-Uの結果を分析し、教職員で共有するとともに、スクールカウンセラーとも連携して、全児童が安心して学校生活が送れるようにする。
人権を大切にする児童の育成	・全教育活動を通して、自分も友達も大切に作る心の育成を図る。 ・「いのちの日」を設定し、全学級でSOSの出し方に関する授業やいじめ防止に関する授業を実践し、「いじめをしない、させない、ゆるさない」	・朝会での校長講話や各学年、各学級でも、年間を通して「自分も友達も大切にする」ことを意識させる。 ・年1回の「いのちの日」の授業やいじめ防止の授業を全学級で確実に実践する。

	の徹底を図る。 ・いじめ対策委員会を毎週実施し、いじめの未然防止と早期発見・早期解決に組織的に取り組む。 ・特別支援学級との交流や共同学習、都立学校との副籍交流などを通して、障害に対する正しい理解と認識を深める。	・いじめに対する指導については、週1回のいじめ対策委員会と毎週火曜日の生活指導夕会などで組織的に対応を検討しながら進め、丁寧な初期対応と保護者との連携を図っていく。 ・特別支援学級「すぎの子」と通常級の交流については、児童の実態に応じて継続的に行っていく。
基本的な生活習慣の定着	・自らすすんで元気に挨拶できる児童を育成する。 ・児童理解を深め、各学年・学級の共通理解と統一的指導に努め、生活指導体制の充実を図る。 ・家庭と連携して基本的な生活習慣の育成を図る。	・年間を通して、全校朝会での講話や生活指導からの話、挨拶運動を行い、すすんで挨拶のできる児童を育成していく。 ・毎週火曜日の生活指導夕会では、全学級の児童を全教職員で見守り意識を高め、様々なルールに基づいた指導を教職員全体で共通理解しながら統一した指導を徹底する。 ・宇津木台小のきまりを配布するとともに、保護者会等で確認をしながら家庭と連携していく。 ・セーフティ教室では情報リテラシー教育を行い、SNS 宇津木台ルールを作成して家庭と連携を取りながら、自らの身を守る意識の向上を図る。

(3) 保護者・地域から信頼され、地域の誇りとなる学校にするために

項目	具体的な目標	今年度の取組
学校運営協議会	・学校運営協議会と地域・保護者が協働した学校運営を目指す。学校コーディネーターを懸け橋として、保護者、地域と協働できる体制を整えていく。	・学校コーディネーターを懸け橋として、学校と保護者地域が保護者、地域が連携しながら、教育活動を実践していく。
情報公開	・学校公開等、保護者が学校に来る機会を設定するとともに、ホームページ等を活用して情報を発信していく。	・学校説明会や学校公開、道徳授業地区公開講座の実施、学校便りや学年便り、ホームページ、Home&Schoolによる積極的な情報提供を行う。 ・ホームページは、学校での教育活動を知ってもらうために、毎日更新をする。
学校改善	・保護者や地域の方の思いや願いを受け止め期待に応える学校改善に取り組む。	・学校運営協議会での意見や保護者・地域アンケートをもとに、地域や保護者の意見を参考に、改善できる点については、早急に対応していく。

安全・安心な環境づくり	・自らの命を守れるような児童の育成を図る。 ・アレルギー対応を確実にを行い、誤食等起こさない組織対応をする。	・毎月の安全指導や避難訓練を確実に実施し、安全に対する意識を高め、自らの命を守れるようにする。 ・アレルギー研修を行い配膳の徹底をするとともに、保護者との連携を確実にを行い、誤食が絶対にならないようにする。
-------------	---	--

(4) 連続性を大切にする学校にするために

項目	具体的な目標	今年度の取組
保・幼・小連携と小中一貫教育について	・石川中学校区小中一貫教育では、各校との連携を図り、授業公開などを行い、交流を充実させる。 ・保育園や幼稚園との連携を深め、1年生の不登校0を目指す。	・小中一貫教育の具体的な取組を確実に実施し、年3回の小中一貫教育の日の充実を図り、円滑に進級できるようにする。 ・1年生の不登校は0という目標を達成するために、近隣の保育園や幼稚園と情報交換や授業観察を実践するとともに、スタートカリキュラムを活用して円滑な接続を図り、保育園や幼稚園との連携を図る。

(5) 一人一人を大切にする学校

項目	具体的な目標	今年度の取組
児童の心の居場所となる教育環境づくり	・教育相談の充実を図ることによって児童理解を深め、いじめや暴力の根絶、不登校の対応に努める。 ・不登校や不登校傾向にある児童に対して、一人一人に寄り添った対応の充実を図る。 ・すぎの子学級やこみっきいにおいては、一人一人の心身の発達段階に即した個別指導目標を設定し、障害の程度・課題に応じた指導の充実を図るとともに、保護者との連携を密にする。	・教育相談研修を実施するとともに、特別の支援を必要とする児童や不登校児童などについて、スクールカウンセラーや市のスクールソーシャルワーカー等関連機関と連携を図り、対応策を組織的に検討し実践していく。 ・相談できる大人がいるかというアンケートでは、全児童がいるという回答ができるように、サポートルーム等を活用して居場所づくりを行っていく。 ・サポートルームを整備し、個々の課題に応じた丁寧な対応を行い、外部とつながりのない不登校児童はいないようにする。 ・個別指導目標をもとに、保護者との面談や日々の連絡などで、連携を図りながら教育活動を進めていく。